

講義名	国際経営論【商学部】		
担当教員	李 東浩		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 4時限	授業形態	講義

履修開始年次	2年生	単位数	2	備考
---------------	-----	------------	---	-----------

主題と概要

本授業は独自開発した「ファイブ・モジュール」考える学習型授業教育法を実施する。
本授業の実施方法の詳細については、<https://ryuka.repo.nii.ac.jp/>「高等教育推進センター紀要 第2号」以下の論文を参照してください(全文無料ダウンロード可)。 李東浩(2017)「学生の心を開く生きた教育 教員双方の意識転換によるアクティブラーニング」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第2号 pp.75-104(30頁)
ちなみに、本ゼミの実施方法の詳細については、以上同様、第3号 以下の論文、李東浩(2018)「学部ゼミ運営に関する一提案 楽しも願懐る」から「ひとつくり、」、『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第3号 pp.1-19(19頁)
真面目な学生・本気に勉強の意欲がある学生は強く勧める
毎回、面白いビデオがある
毎回、楽しいレスポンス課題提出がある
先生だからの学びではなく、学生同士が互いに勉強できる革新的な学びの仕組み

ICT(情報通信技術)とグローバル化の進展により、多くの企業は、母国以外でも積極的に事業展開を進めている。欧米日など先進国の企業による国際的な事業展開は勿論長い歴史があるが、最近、新興国企業による国際展開も目覚ましい。この講義は、多国籍企業の事業活動に関する理解を深め、それにに関する基本理論・特徴と実態を把握し、異文化、異なる制度環境という視点から企業経営を分析する能力を身に付ける。

1. 国際経営専門分野の基礎的な知識とともに、事例研究を通じた主体的な考えた型学習により、共通DP(卒業認定・学位授与方針)に貢献する。基礎知識・問題探索・課題提案能力のDPにもつながらず。
2. 知識・能力・資格等で常に自ら考え抜き、理解し切れることで企業経営の仕組みと組織行動を理解するのに役立ち、経営の仕組み・組織行動を自ら考えて理解するDPに直接つながる。
3. 優れたグローバル思考力と判断力の養成を促し、高度な表現力とコミュニケーション力で、企業や組織の国際経営課題を仮設・検証のPCOA分析サイクルに役立ち、グローバルな課題を現状分析・改善提案能力のDPに直接つながる。

到達目標

- (1)知識・能力・資格を身につける。
本講義を通じて、目標をまたがる多国籍企業の事業活動に関する理解を深め、それにに関する基本概念・理論・特徴と実態を把握し、異文化、異なる制度環境といった視点から企業経営を分析する能力を身につける。欧米日など先進国の企業による国際的な事業展開は勿論長い歴史があるが、新興国企業による国際展開も目覚ましいので、より体系的な理解を構築できるようになる。
 - (2)思考力・判断力・表現力を向上する。
論理的に基本的な概念・理論と方法を学ぶだけでなく、毎回の授業に実際の企業の実例も取り上げ、ビデオをも活用しながら、理論と実際とをバランスよく理解できる。ただ単に授業内容をビデオを聞く・見るだけでなく、考えて、判断、討論、発言、考え直し、まとめ、といった一連の仕組みで毎回、知識と能力が身につき実感できるようになる。
 - (3)主体的な学習態度を養成する。
履修生は、能動的で主体的に知識を吸収・理解・習得・運用する能力を養成できるようにする。
日々の授業・後の就職先で企業の国際経営に触れたり、国際経営に関する新聞記事を読んだりする際には、国際経営分析の視角から課題発見と課題解決を行い、世界的な大局観視点から分析能力を養成できるようにする。
- 本講義を学ばせることによって、日本に企業に接触したり、企業に関する新聞記事を読んだり、ニュースを聞いて、国際経営の側面から評価し、レポートにまとめることができる。
また、得られた国際経営の理論とケースの知識と能力を身につけ、世界的な大局観を形成できる。

提出課題

1. 各自事前に、レスポンス、ポータル、アプリなどの使用方法等を熟知・理解し、毎回課題を提出できるように準備してください。
2. 毎回、レスポンス課題の提出があるので、指示に従い、〆切期間中に真面目に提出をしてください。
3. 毎回の提出物に基づき、出欠と単位・成績を取るので、毎回出席・勉強・提出を心がけてください。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

1. 毎回、前回課題へのフィードバックや振り返りを解説する。優れた提出内容等、マーカ―や色付けで強調して表彰する。モチベーションアップにつながるだろう。
2. 毎回、全体的な状況や一部代表的な課題を見本として提示して、双方向・多方向的考える学習型授業の醍醐味を理解して、お互いに勉強しましょう。
3. 毎回、自分の学習成果のチェックだけでなく、他人の意見や考え、先生のコメント・説明をも確認でき、PCOAのスパイラルアップ過程を通じて、毎回自分のやる気にもつながり、自己成長を実感できる。

評価の基準

1. 平日出席と提出課題及び、期末試験、の質・量で総合的に評価する。
2. の平常出席と課題が55％ウェイト、の期末試験が45％ウェイトに占める。
期末試験不提出の場合、直接不合格になる。
3. の期末試験はオンライン型とのレスポンスで提出になる。
期末試験の前身である、内容・要領・期間・期間等において、大学の期末試験期間中(第16週)にポータルに提示する。ネット等の不具合対策を協議しうえ、余裕をもって、〆切まで期間中に提出していただきます。
念のため、期末試験そのものの通知は、第11週から期末試験終わりでポータルにも提示する。
4. この授業は、毎回レスポンスで出欠確認・成績評価・採点のシステムを進める。
そのため、一回出席であっても、当該分の成績がなくなる
よって、毎回、授業出席・課題提出、加えて期末試験課題提出を、きちんと自己管理してください。

履修にあたっての注意・助言他

1. 先輩からの以下の意見を是非参考してください。
「五感に触れる臨場的な授業」：
2. 「この授業を1つの企業とすると、CEOに李先生で社員が私たち生徒だとすると、社員に意見する場を与えて、それを共有し、すく実行する。優良企業だと思います。モチベーションがとても高く維持できています」
3. 「いま4年生だけども早くこの授業に出会いたかった」：
知識そのものだけでなく、知識を獲得する姿勢と方法を学べ！
4. 「単位を取ることはとても大切ですが、この授業では、それだけのための授業ではないと私は、強く思います」

教科書

.使用しない.

プリント資料及び参考文献

1. レジメ(=プリント)等資料は必ず各自事前に RYUKA Portal からダウンロードと印刷して教室まで持って来て下さい。早めにダウンロードを済ませて下さい。当日授業レジメを教室まで持たない場合、降格の可能性ある。
2. 授業はPPTレジメ・資料、映像、討論で進む。レジメには穴埋めが相当認められ、PPTと確認しながら記入してもらう。
3. 参考文献：『ワークブック国際ビジネス』文真堂 2009年。『国際経営論への招待』有斐閣 2002年。『新グローバル経営論』白桃書房 2007年。他授業中随時紹介。

授業計画

- 授業シラバス。注: ()内はビデオ内容。
1 イントロダクション: 講義の概要と進め方 (日本企業の進軍第一弾)
2 フラット化する世界とグローバル化への理解(日本企業の逆襲第二弾)
3 小売り企業の海外進出: セブン&アイの中国進出その1(仕事の流儀 三枝@中国 上編)
4 小売り企業の海外進出: セブン&アイの中国進出その2(仕事の流儀 三枝@中国 下編)
5 生産体制の海外展開: トヨタの米国進出その1(NUMMIの過去、現在と未来 上編)
6 生産体制の海外展開: トヨタの米国進出その2(NUMMIの過去、現在と未来 下編)
7 国際企業を作ろう: ソニーの米国進出その1(ソニー神話の真実 上編)
8 国際企業を作ろう: ソニーの米国進出その2(ソニー神話の真実 下編)
9 国際戦略提議: 鴻海とシャープその1(昏戦する日本テレビ・メーカー)
10 国際戦略提議: 鴻海とシャープその2(復活するか?液晶王国日本)
11 国際経営と国際企業(海外奇を待たせ！)
12 国際現地を知る: 中国の豊かさへの模索(貧富の超格差・爆買いと富裕層貧困層)
13 国際経営の理論基礎(異国文化の体系進出)
14 国際異文化経営(ビジソンの海外進出)
15 国際企業のマーケティング: 現地適応(スキー場の国際経営戦略)

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア: PBL(課題解決型学習)		イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="radio"/>	ウ: ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/>	エ: グループワーク
	オ: プレゼンテーション		カ: 実習、フィールドワーク
	キ: その他(A型でもあるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回、「知識は力になる」こと、を実感できる。
毎回、「能力を蓄積する」こと、を実感できる。

だから、他のたくさんの授業のように、期末だけで猛勉強による一発勝負することはない(人生も同じような状況だろう！つまり人生も基本的に一発勝負ではなく、長年平日の積み重ねる努力こそは大事！)。
恐らくこの授業は、あなたに認められる大学授業の一つである(授業が終わっても長く長くまで鮮明に覚えるかもれない)。
興味と余力があれば、授業の指定する参考文献をも読んでほしい。

1. 毎回事前に、ポータルの連絡通知にプリント資料とともに次回の予習や復習の課題を指示する。
2. 毎回の予習時間は、授業時間(90分=2時間相当)の2時間くらいにしてください。
毎回の復習時間も、2時間くらいにしてください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

1. 企業や組織の国際運営の基礎知識や仕組みを自ら主体的な立場から理解できる。共通DP及び業界動向・問題探索・課題提案能力のDPに貢献できる。
2. 身につけた知識・能力・資格等を生かして、組織メンバーと外部関係者とも協力的に働きかける。自ら考えと理解のDPに貢献できる。
3. 国際経営の戦略立案と実行しながら、現地のニーズにも適応しつつ、柔軟で俊敏に大局的な視野と能力を持つことができる。グローバルへの関心・分析や改善・解決のDPに貢献できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義を聞くだけでなく、考えてグループワークで喋ったり、発言をする。
映像を見るだけでなく、メモしたり分析して、レスポンスに回答を出し、発言をする。

1. 対面型授業では、質問やクイズなどをする場面もあるので、積極的に考えて、発言をしてみてください。
2. オンデマンド型授業では、他人の発言を見て、自分も発言できるように授業に臨んでください。
3. 先進的なレスポンスなどのシステムを駆使し、リアルタイムで他人の課題結果をグラフなどで確認でき、授業の効率と学習意欲の向上に繋がる。

実務経験の有無及び活用

なし。

備考

学生による評判が高い本授業は以下の特徴があるので、真面目な心構えがあれば是非一度体験してみてください。
通り手前のある授業(そうか！これこそは大学らしい授業だ！)。
初めて受講できる授業(私生活とはどことなく)。
退屈ではない(退屈の時間さえもない！)。
みんな一緒に互いに勉強する(自力・他力、旨の力を感じる！)。